



地域で

子どもたちを 育もう！



遊びを通して子どもたちの力を伸ばす

一五ヶ瀬風の子自然学校（宮崎県）一

過疎化の進む山間の町に子ども

たちのにぎやかな声がこだま
する。「風の子自然学校は子ども

への社会教育の場」と言うN

PO法人五ヶ瀬自然学校の杉田

英治理事長。子どもを中心に地

域づくりを進め、いずれば外に

出ても戻って来られるような地域を、地域愛に支

えられた生きる力のある子どもを育てたいと言う。

宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町の放課後子ども教室「風

の子自然学校」に、人間力ある子どもを育てる仕

掛けを探った。

（取材・文／鈴木 さや香）

子どもたちの創造力を引き出す

鞍岡小学校の全児童60人中56人が毎日やって来る。ここに来ると楽しい！ という子ども同士の

口コミでこれほど人数が増えたのだ。

ある時、子どもが学校の帰りがけにダンボール

をもらってきたことをきっかけに、子どもたちは

どんどん遊びを工夫するようになった。遊ぶ場所

が狭いため、飛びにくいように新聞紙を丸めた紙

玉ボールで野球をしたり、さらに大きくしたボ

ールでドッジボールをしたり。室内では新聞紙やダ

ンボールを張り合わせたおぼけ屋敷を作っていた。

完成すると皆こぞって押し

かけ、大盛況。もちろん後

片付けも高学年が率先して

やり始め、他の子もそれにならう。

「大人が指示するところは

ならない。私たちは、ハサ

ミや新聞紙など創意工夫の

素を置いておくだけでいい

素を置いておくだけでいい



お手製の紙玉ボールで
元気よく遊ぶ



おばけ屋敷に大行列
呪いがかかるからタ
オルをかぶって！



のです」と杉田さんは言う。ぎりぎりまで手を出さないようにする。「すると子どもも自分で何とかしようとし、できたときの達成感が成長につながる。この達成感を演出するのが大事なのです」。ケンカもあって仲裁はしない。見守ることで子ども自身の気づきを促すのだ。

異年齢の子どもが混ざり合う

農園で大豆を植えた時、早く終わった高学年が低学年を手伝い、低学年も喜んでお礼を言う。上の子が下の子の面倒を見る姿はここでは自然に見られる。杉田さんによると、下級生ばかりをかばわず、上級生をかわいがると、その子が下の子を、下の子がまたその下の子をかわいがるという良い循環ができるという。これが異年齢の子どもが混ざることの効果だが、大人も同じようにできるだけのいろいろな人がいたほうがよいと杉田さんは考える。それが社会であり、親でも先生でもない、利害関

係のないさまざまな大人と接することで、多様な価値観があることを示したいそうだ。

地域の人のサポート

地域の人の協力を得るには「大事なものは焦らないこと。ある程度の関係ができてから動かないとうまくいきません」と杉田さん。スタッフ6人中3人は保護者だ。地域のお年寄り（中には児童の祖父母も）は農園指導など得意な分野で関わってもらう。地域の人が関わることで安心感が生まれる。杉田さんは、時間をかけて地域の人との信頼関係を築いてきた。

地域づくりの中心に子どもがいるのも特色だ。さまざまな自然体験活動も、経験不足な子どもたちには自分で考え行動する力を身に付けてほしいという他に、地域のすりこみという目的がある。遊びや体験活動を通して地域愛を育み、他人への思いやりや自分で成し遂げる力を学ぶ。そのために大人は環境を整え、焦らずに子どもへの気づきを待つことが求められているのではないだろうか。